

2019年度事業所自己評価 集計報告書

2019年度わくわく未来CAN2は、2段階の評価を行いました。

実施日 2019年5月21日 「自己チェックリスト」

2019年7月20日 「ガイドラインに沿った事業所評価」

わくわく未来CAN2「自己チェックリスト」設問 実施:2019年5月21日	よくある	時々ある	ほぼない	特徴的な内容
1. 利用者への体罰など（虐待防止）①～⑤		1%	99%	おやつを全員が食べ終わるまで、座って待たせている
2. 利用者への差別（権利擁護）		12%	88%	歩き方や、話し方の真似をした／敬称をちゃんにした 「かわいい」と、「揶揄」を区別しなければと気づいた
3. 利用者に対するプライバシーの侵害		15%	85%	自立男子の介助に、女性職員が入ることが多い（直接介助はないため）
4. 利用者の人格無視	5%	20%	75%	口調の厳しき／威圧的態度／「まってて」 短い言葉での指示の厳しき
5. 利用者の強制制限			100%	わいせつな行為／いやがる作業の強要は、ない。

（総評）

・利用者比率では、男児の利用が8割だが、職員は、男性職員が2割。このことから、プール着替え・トイレ介助・外出介助について、ある程度自立できる子どもたちについて、女性職員の対応になっていることが、明確化された。

・わくわく未来CAN2では、家庭で取り組めなくなっている「座って食べる」こと 「人の終わりを待つ」ことを大切にしている。新規採用の職員にとって、正座で待たされているとの受け止めがあった点は、職員教育のポイントとなった。

・法人倫理要綱によって、利用者への不適切行為／環境的な要因（死角や、子どもだけの行動）がないことが伝統的に評価されている。職員会議で、子どもたちの口まね・行動のまね を交えることも、差別ととらえなければならないことに気づくことができた。

・保護者より＝「長く働いている職員の配置が多く、アドバイスも多くもらっている。避難訓練・想定訓練が頻繁に行われるので、短い言葉での指示が威圧的な表現 と言われてしまう場合もあり得る。」・・・ありがとうございます。今後は、丁寧なことばづかい（品位の未来CAN）をめざしていきます。

★ sheet 2 に、横浜市放課後等デイサービスガイドラインにそった事業所評価が記載されています。

横浜市放課後等デイサービスガイドラインが、2019年に改訂となりました。
わくわく未来CAN2では、従前よりガイドラインを職員の個人資料としています。その資料を読み込み、

1.「特にできている！」 2.「この点は改善を要する」点について各職員からの書き

1. 特にできている！

わくわく未来CAN2 2004年～事業を実践している中からの振り返りです

①単なる預かりの場ではない

今後のことを見すえた保護者への働きかけ、子どもの育ちについて職員の専門的支援。

子どもの利益を優先し、場合によっては保護者と話し合いを続け改善している

②個別支援計画書の独自性

(保護者より)細かい点を確認できる。自宅でも取り組める課題で毎回助かる・・・

スタイルを適宜変えて、今いる子どもたちの育ちに合わせることができている。

③リスクマネジメント(危機管理)

あらゆるリスクに対応するマニュアルの整備と、実践。

避難訓練、想定訓練を年3回一週間ぶっ通しでやっている。

職員の配置が多いため、目配りができる。ケガ・トラブルがあってもすぐ対応している。

ヒヤリハット・アクシデントをちょっとしたことでも書き、再発防止の共有をしている。

④研修による質の担保

外部研修に行けるチャンスが多い。(時間給、交通費がうれしい)

研修に行った人の負担は申し訳ないけれど、内部研修が毎回あるので安心。

2. 改善の気づき

わくわく未来CAN2の歴史に甘んじないために、職員自らが気付いて行動します！！

①排泄など

日々、保護者との連携を続けることが自らの気づきにつながることを再確認。月1回の職員会議で、「わかった」を「できる」に代える取り組みを意識します。